



～ 2019年10月からスタート～

## 消費税軽減税率制度（複数税率） 領収書、レシートが変わる インボイス制度とは 補助金対象・POSレジ&システム「羅針盤」

消費税率は2019年10月1日から現行の8%から10%にアップする。それに伴い軽減税率が導入され、「飲食物品（酒類を除く）」と「週2回以上発行の新聞」の2品目はいずれも税率が8%となる。消費税は8%と10%の複数税率となり、それぞれの税率を記載するインボイス方式が導入される。従来の請求書や納品書、領収書などの記載方法が大きく変わる。

2019年10月から2023年9月までの期間は簡易インボイス、2023年10月から正式に導入されるというシナリオだ。今回はインボイス方式の詳しい説明と、インボイス方式に対応した中小企業庁の補助金対象製品となっているPOSレジ&システム「羅針盤」(メディアネットワークジャパン)の特徴について詳しく紹介しよう。



▲軽減税率補助金対応のPOSレジ

多彩な決済ニーズに  
対応しキャッシュレス

J-Mups



J-Mups 端末

・クレジットカード ・銀聯  
・デビットカード ・電子マネー



▲POSレジレシートイメージ

### インボイス制度で変わること

消費税とは事業者が預かった消費税額から負担した消費税額を差し引いて納入する税金のこと。その負担した消費税額を差し引くことを「仕入税額控除」という。

軽減税率導入で8%と10%の複数税率となった場合、より適正に「仕入税額控除」額を計算できるように考えたのが「インボイス制度」だ。

現在では消費税率が統一なので、請求書に基づいた税額の計算が可能だが、消費税が複数税率になると対応しきれない。

# ビジネス 速報

Business Breaking news

そのため、全ての商品一品ずつに対し、それぞれの税率と税額を記載することになる。

現行制度は「請求書等保存方式」を採用しており、請求書や領収書、レシートなどには次の項目の記載が必要となる。

- ・「発行者及び受領者の氏名又は名称」
- ・「取引の年月日、内容、対価の額（税込）」

インボイス制度では上記の記載事項に加え、

- ・「登録番号※」
- ・「税抜き価額又は税込価額を税率ごとに区分した合計額及び適用税率」
- ・「消費税額」

—などの記載が必要になる。

つまり、現行より仕入税額控除の要件が厳格になるということだ。

領収書の記載は次の事項がポイントになる（国税庁のホームページ「消費税の軽減税率制度に関するQ&A」(制度概要編)。

- ・軽減税率対象品目には「※」などを記載する。
- ・税率ごとに合計した課税資産の譲渡等の対価の額（税込み）を記載する。

※事業者がインボイスを発行する為には、所轄税務署に申請書を提出し、「適格請求書発行事業者」として登録をする必要があります。

### 独自の商品マスター機能を搭載

こうした煩雑なインボイス方式に対応しているのが、メディアネットワークジャパン（東京都北区・03-3906-3561）の経営情報システム「羅針盤」である。

大きな特徴は、8%の商品も10%の商品も、それぞれ発注・仕入管理、在庫管理、商品管理、売上管理、顧客管理などの他、個々の商品分析や顧客分析などにも対応できるという点だ。

他の市販ソフトや特別にカスタマイズされたシステムでも、ここまでの能力や機能が集約されたものはないだろう。

羅針盤の強みは独自の「商品マスター」機能が搭載されている点にある。商品別の売上数量や売上金額、粗利益、仕入れ単価、在庫数などの詳細な商品情報を網羅している。

また、導入店の各業種に合わせて、羅針盤「商品マスター」のカスタマイズにも対応できる。



▲商品マスター

顧客マスターと商品マスターが連動しているので、いずれからも商品の売れ行きや在庫、売り掛け状況などがつかめる。中でも「羅針盤」導入店の評価が高いのは商品の「検索機能」である。検索したい商品名や型番を入れると、その商品の販売価格や仕入れ価格、粗利、在庫状況などが瞬時にチェックできる。

もちろん、軽減税率の対象品目である「飲食物品」や「新聞」などの検索も可能だ。  
インボイス対応の場合、伝票発行は非常に面倒な作業になる。羅針盤の伝票機能はレシート入力だけでなく、見積伝票や売上伝票、納品伝票、請求書や領収書などの発行や切り換えがスムーズに対応できるので非常に便利だ。



▲納品伝票



▲カスタマイズ伝票

### 煩雑な業務を改善をするハンディターミナル

では、インボイス方式に対応した「羅針盤」の新機能をみてみよう。今回、紹介するのは、ハンディターミナルが搭載された「羅針盤 総合管理 PRO-POS Deluxe」である。

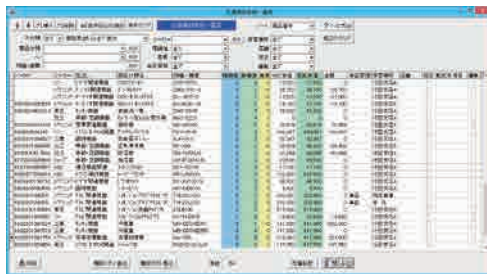
バーコードを読み取るハンディターミナルを活用することによって、販売管理や在庫管理だけでなく、在庫棚卸管理、入庫管理などこれまで煩雑だった業務を改善し効率化することができる。

特に、入出庫管理は重要なポイントだ。商品管理でよくあるのが転記忘れや転記ミスなどの原因で、商品の出し入れの数が合わないケース。

羅針盤には在庫の過不足分の調整機能があるので、その機能を利用しよう。

例えば、現物棚卸しを行いテレビが2台あったとしよう。だが、パソコン上の管理画面では3台と表示されている。

在庫調整機能を利用し「-1」という数字を入れるだけで、羅針盤が在庫調整を行うためのすべての作業をやってくれる。



▲在庫棚卸



▲「羅針盤 総合管理 PRO-POS Deluxe」のハンディターミナル

これまで在庫の過不足があった場合、商品ひとつずつの数量や金額をメモに書き込み、そのデータをパソコンに入力して在庫を調整していたので業務効率が大幅に改善する。

もちろん、ハンディターミナルでも対応できる。商品入荷の際にはハンディターミナルでバーコードをスキャンし、商品の入庫数や単価などを入力する。

それらのデータはハンディターミナルから羅針盤の商品マスターに送られ、緻密な商品管理が実現できる。

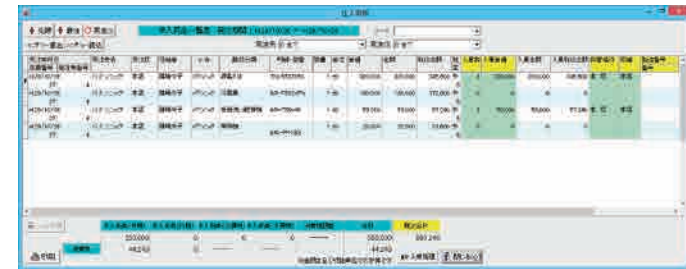
### 発注ミスを防ぐ新機能

発注ミスを防ぐのも羅針盤の大きな特徴だ。発注伝票を打つと自動的に「仕入引当伝票」が出来上がり、入庫の打ち込みで「仕入伝票」が出来上がるというプログラムになっている。

発注伝票と仕入伝票をしっかりと照合すれば、発注ミスはもちろん、発注して商品は届いているものの、パソコン上では「未入荷」になっている「入力忘れ」なども防げる。

このようにパソコン上では未入荷になっていたため、再度発注してしまったという販売店も少なくないはずだ。

他のソフトやシステムにはない機能が「未入荷一覧表」。発注したもののまだ届いていない商品を一覧表示してくれる利便性の高い機能である。



▲未入荷一覧表

羅針盤「Deluxe」では最新の「ID-POS」機能を搭載しているのも大きなポイントである。

従来の POS データでは「何が、いつ、いくつ、いくらで売れた」という商品の動きを見るのに対して、ID-POS は「誰が、何を、いつ、どこで、いくつ、いくらで買った」という顧客視点で情報を管理する。

発行日 2017/09/08 MEMBER'S CARD

会員番号 15

お名前 田中 エミコ

入会後の、会員様にお得なサービス付き商品お買上毎にポイントサービスが加算されます  
当社の本支店で、割引券としてご利用可能  
この会員カードは貴方様の専用カードです

メディアネットワークジャパン株式会社  
〒381-0044 埼玉県行田市門前3-2-4-7  
TEL.048-553-0077 FAX.048-553-9088

**最新の「ID-POS」機能を搭載**

最新の機能とは何か。それは D ナンバーの CTI に対応している「ID-POS」機能だ。流通業界で最先端を走るコンビニエンスストアが採用し、需要予測の精度を大きく引き上げている最新機能である。NTTハローページの番号情報 (D ナンバー) である全国 3900 万件が CTI システムに結合されることで、着信相手の電話番号情報 (D ナンバー) で「着信相手情報の登録」が瞬時にできる。もちろん D ナンバーから番号検索でも顧客登録ができる。

従来の POS データでは「何が、いつ、いくつ、いくらで売れたのか」を把握する情報だったが、羅針盤の新バージョンでは「誰が」が加わり、本来の意味での顔の見えるデータベースマーケティングが実践できるようになる。D ナンバーとリンクすることで、着信電話の顧客対応から売上管理や商品管理、各種集計・分析業務なども一元化できる新しい発想のシステムだ。

▲会員カード

さらに、「リピート状況はどうなっているのか」、「一緒に何を買っているのか」、「次に何をかうのだろう」という顧客の動きを予測することもできる。

店側は「ポイントカード」や「会員カード」などを発行。顧客の購買行動の精度を高め、個々の顧客にマッチした効率的な販促やマーケティングが展開できるようになる。